

都市再生整備計画（宇都宮駅周辺地区）の概要

本地区は、宇都宮駅を中心とする広域交通の要衝に位置しており、駅西口には県内の政治・経済・文化の中心である商学・業務施設が集積し、駅東口はテクノポリス等の全国有数の高度技術産業ゾーンの玄関口となっている。

しかしながら、本地区を含む都心部では、大規模商業施設等の撤退や郊外移転、文化・教育施設の郊外分散化により、空洞化が進行している。また、宇都宮駅は7万人が乗降する北関東屈指のターミナル駅であり、公共交通の結節点であるが、路線バスの西口への偏在等により、その機能が十分に発揮されておらず、また自動車交通依存の社会となっている。

このため、本地区を含む中心市街地の活性化を図るため平成11年に『宇都宮中心市街地活性化基本計画』、平成14年には「宇都宮都心部ランドデザイン」を策定した。

その後、市民が主体となったまちづくりを進めるため、学識経験者や市民を交えた懇談会を開催し、宇都宮駅周辺の整備について検討を行い、平成17年に駅東口土地区画整理事業の着手、平成18年度には、まちづくり交付金の採択を受け、さらなる事業の推進を図ってきたところである。

（1）計画概要

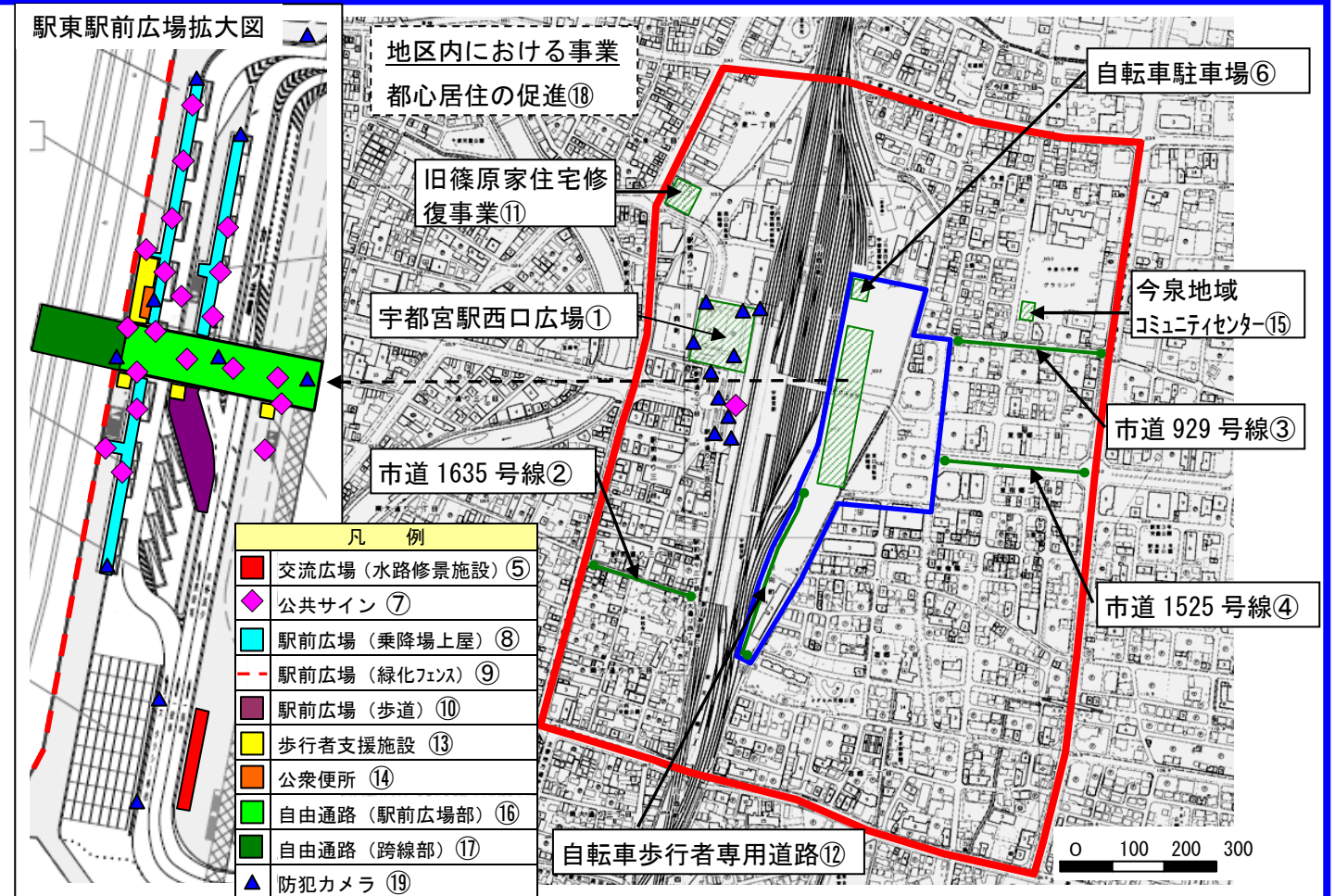
- 【地区名】宇都宮駅周辺地区
- 【面積】71ヘクタール
- 【交付期間】平成18年度～平成22年度
- 【交付対象事業費】約22億円（国費率40%）
- 【区域】今泉1丁目、南大通4丁目、川向町、東宿郷1・2丁目、宿郷1・2丁目 その他

（2）まちづくりの目標

- 【大目標】
 - 北関東をリードするひと・もの・文化の交流するゲートシティの形成
 - 県都・宇都宮の玄関口として、ひと・もの・文化が活発に交流し、安全で安心なまちづくりを行う
- 【小目標】
 - ・北関東最大のターミナル駅に相応しい交通結節機能の強化
 - ・地域の魅力を向上し、ひと・もの・文化が活発に交流するまちづくり
 - ・すべての人にやさしく安全で安心なまちづくり

（3）事業

- 【道路】宇都宮駅西口広場【右図①】、市道1635号線【右図②】、市道929号線【右図③】、市道1525号線【右図④】
- 【地域生活基盤施設】（仮称）交流広場（水路修景施設）【右図⑤】、自転車駐車場【右図⑥】、公共サイン【右図⑦】
- 【高質空間形成施設】宇都宮駅東駅前広場（乗降場上屋、緑化フェンス、歩道舗装）【右図⑧⑨⑩】、旧篠原家住宅修復事業【右図⑪】、自転車歩行者専用道路（緑化フェンス）【右図⑫】、歩行者支援施設（エレベーター・エスカレーター）【右図⑬】、公衆便所【右図⑭】
- 【高次都市施設】今泉地域コミュニティセンター【右図⑮】、東西自由通路（駅前広場部）【右図⑯】、東西自由通路（跨線部）【右図⑰】
- 【地域創造支援事業】都心居住の促進（若年夫婦世帯家賃補助）【右図⑱】、防犯対策事業（防犯カメラ）【右図⑲】



東西自由通路（駅前広場部）⑯



宇都宮駅東駅前広場（乗降場上屋）⑧



歩行者支援施設 ⑬
（エレベーター・エスカレーター）



（仮称）交流広場 ⑤
（水路修景施設）



今泉地域コミュニティセンター ⑮



市道1635号線 ②